

令和7年度 第1回加西市総合教育会議 会議録（要約）

1 開会日時 令和7年6月25日（水） 15時30分

2 閉会日時 同 日 16時25分

3 開催場所 加西市 5階大会議室

4 出席委員

市長	高 橋 晴 彦
教育長	菅 野 恭 介
教育長職務代理者	中 川 和 之
委 員	楠 田 初 美
委 員	深 田 英 世
委 員	荒 木 努

5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

政策部部長	高 見 昭 紀
政策部 政策課長	柿 本 尚 一
政策部 政策課係長	谷 口 成 俊
教育委員会 市参事兼こども未来課長	上 坂 智津子
教育委員会 教育総務課長	松 本 富 美
教育委員会 学校教育課長	小 坂 卓 司
教育委員会 生涯学習課長	北 島 悦 乃
教育委員会 図書館長	桜 井 雄一郎
教育委員会 総合教育センター所長	三 村 尚 彦
教育委員会 学校再編室長	中 井 孝 浩

6 傍聴者 一般：6名、報道機関：0名

7 協議事項

- （1）学力向上を目指した取り組みについて
- （2）学校施設跡地の活用について

8 その他

9 会議内容

別紙のとおり

会議録

次第

- 1 市長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 協議事項

- (1) 学力向上を目指した取り組みについて

〔説明〕

教育長 （以下、別添資料1の説明）

別添資料1を使って、学力向上戦略の提案について説明させていただく。これは、先日開かれた、校長会で説明したところであり、教員に対しての説明はまだである。

1つ目はリーディングスキルトレーニングである。

各学校に「シン読解力」と「読解力トレーニング」という本を1冊ずつ配置しており、先生には是非読んでいただきたいと思っている。そこに書かれているのが、「生涯にわたって、子どもたちが社会を生き抜くための力となる読解力の向上を目指すトレーニング」ということである。要するに、一般的に書かれた文章をきちんと理解して、それを自力で読んで対応できるようにするトレーニングである。これを開発された国立情報学研究所の新井紀子先生は、AIの専門家でその業界では有名な方である。その方が、そのAI研究の中で、人によって、同じ文章や教科書を読んでも理解が違うことに注目して開発されたトレーニングである。このトレーニングの一番良いところは、各学校でやっている教科学習で何かをするのではなくて、教科学習の最も基本となる、読んで理解して話すというところを伸ばすトレーニングであるということである。リーディングスキルトレーニングの効果としては、2020年にこれを取り入れた福島県相馬市の小学校で「全国学力・学習状況調査」において、全国平均点と比較して2021年は国語でマイナス7.7点、算数でマイナス9.2点であったが、取り入れてから2年目には、国語でプラス0.4、算数でプラス1.8点。3年目の2023年には、国語でプラス2.8点、算数でプラス3.5点というように、トータルすると10点以上の改善がみられた。相馬市の指導主事の實氏に聞くと、特効薬というより漢方薬のようにじわじわ効いてくるとおっしゃっていた。学力を高める効果がはっきりと出ており、取り入れる価値はあると考えている。学校でやっている国語や算数はそのまま継続しながら取り組むことができるというのが一番良いと思っている。

次に、「リーディングスキルトレーニングを意識した授業の実施」であるが、これの良いところは、まず教員が教科書を徹底的に読み込む必要がある点である。今の教科書は量が非常に多く、子どもたちに効率よく学ばせていかなければ、教科書の全範囲を学年内に終わらないといった状況にある教科書をただ単になぞるだけでは、本来の趣旨が伝わらない。このトレーニングは、そういったところにもスポットを当てている。もう1つ良いのは、教科書と既習事項のみで発表や解答ができるようになることである。また、板書を書き写すのに間に合わない子どもに対

して、板書のトレーニングをしっかりとやらせることも、このリーディングスキルトレーニングのポイントであると考えている。

2つ目は学力到達度調査についてである。

学年ごとで学力がどれくらいかを掴んでおくということは非常に大事なことである。教員としても子どもの学力状況を知るということは効果的な指導をするうえで必要なことであると思っている。

3つ目はスマホの使用時間制限についてである。

現在、総合教育センターと相談中であるが、子どもたちのスマホの時間が非常に長く、学習への影響を懸念している。部活動後に帰宅をしてスマホを見て、それから勉強では勉強する時間が少なくなる。スマホの時間を制限したいと思っている保護者もおられるので、何らかの対策を検討して使用時間を制限したいと思っている。これは、計画段階であるので、これをどう実行していったらいいかということは今後考えていきたい。

学力向上戦略の提案については以上である。

〔意見・質疑〕

市長 教育長から説明のあった取り組みについては是非実施していただきたい。

委員 まず、学校再編やスクールバスの準備等に多くの予算をつけていただき、また今年の夏は非常に暑いということで小学校の遠い子どもたちのために、スクールバスを走らせていただけるということで感謝申し上げます。引き続きよろしく願います。30歳くらいの世代では新聞ではなく、スマホでニュース記事等を見ている人も多く、昔に比べて活字に触れる機会が非常に減ってきている。教科書というのは、学者や専門会社、学校の先生などが知恵を詰め込んできた素晴らしいものだと思っている。それをしっかりと読めていない、使いこなせていないというのはもったいないと感じており、教育長の説明のあったことや相馬市の取り組みを聴いて、やはりこれは大事なことであると思うので、ご提案のあった取り組みを進めることについて賛成である。2つ目の学力到達度調査のテストだが、文部科学省が実施している全国学力学習調査状況調査は小学校6年生と中学校3年生のみを対象とされている。他の学年の学力状況を先生方も知りたいのではないかと。特に単学級の学校が多い中で、若い先生も増えてきており学力分析が十分に出来ていないところがあると思うので、良い取り組みであると思う。ただ、文部科学省の学力調査は無料であるが、市が独自でそういったことを行うと負担が発生するので、可能な範囲で補助を出していただけたらありがたいと思う。

委員 データがあるのは相馬市だけかもしれないが、リーディングスキルトレーニングを加西市でもやってみて結果をみないことには評価ができない。相馬市での取り組みの効果を見ると、国語であればマイナス7.7からプラス2.8にまで上がっている。算数であれば、マイナス9.2からプラス3.5まで上がっている。これは是非やってみるべきであると思う。親視点からの意

見ではあるが、ある先生は板書ばかりで、ある先生はプリントばかりで、これは根拠あつてのことなのか不明であり、統一性がないと感じている。統一した先生の授業方法を検討いただきたい。もう一点、スマホの使用時間制限についてであるが、スマホを買った場合に高校3年生までは、安心フィルター機能が付いているが、安心フィルターの設定が外れていると学校から設定してくださいと連絡がくる。いざ自分でやろうとすると、操作手順が分からなかったり、パスワードを求められるなどスムーズにいかないことがある。小学生、中学生のスマホ所持率は50%から60%であると思うが、それぞれの親が対応することになると煩わしく思うので、年度始めの4月に学校にスマホを持参させて一同に設定させてはどうか。

委員 スマホの使用時間制限について、東北大学の川島教授の名前があがっているが、小野市でも長年にわたって川島教授と連携して教育学習の研究をされている。川島教授が出版されている本には、スマホを使った場合、どのように脳が情報をキャッチするかといった研究をされており、その中で、勉強した後にスマホゲームをしてしまうと学力が伸びないということも書かれている。また、読書をする子どもは必ず学力向上していると発表されているので、スマホの利用は控える方がいいと思う。

委員 リーディングスキルトレーニングの提案について自分なりに調べてみた。本質的な賛否がない方策であるという印象である。リーディングスキルトレーニングとスマホ利用制限作戦というのは、どこまで本気でやれるかということだと思うので、市を挙げてやっていただきたい。なかなか家庭でするのは厳しい状況にある。もちろん家庭の協力も必要であるが、教員、行政が一体となって取り組まなければならないと思う。

市長 提案していただいていることは実行していただきたい。ただ、何をするにしても先生方に余裕がないと感じており、色んな弊害を取り除いていくことも必要がある。最近でもある親が教育現場にクレームをされたという報告を受けている。現場の先生のスキルについても、単学級になっていることが弊害の1つとなっている面もあるので複数学級にすることが最大の目標である。人口が減ってしまってから対策を打っては手遅れになるので、人口減少を食い止める施策を駆け足で進めている。しばらくの間、大きな事業が続くと思うが、特に教育は頑張りたいと思う。今いただいた意見を参考にさせていただくが、先生の方に余力を生む為にはどういった施策が有効であるのかも検討していただきたい。現場の方々にとって一番良い方法を提案いただけたらありがたいと思っている。

教育長 私がリーディングスキルトレーニングにもう1つ可能性を感じているのは、学習についていくのが大変な子がしっかり学習について行って、クラスが1つのまとまりとして、学習する集団ができるという効果である。リーディングスキルを取り入れた授業を見たことがあるが、子どもたちの発表のレベルが高く、そのことを新井紀子先生にオンラインで聞くと、実は、そのクラスは2年前まで学級崩壊していたと言っておられた。学校に来られない子もたくさんいる状況の中で、リーディングスキルトレーニングを一生懸命取り入れる中で、授業が「わかる」「ついていける」「自分が発表したことを支持してもらえる」ということで、学級の中に居場所

ができて、集団として1つのまとまりができたから、みんな学校に来るようになり、不登校もなくなった。本来、学校として必要な授業や体力作りの方にエネルギーを注いでいくためにもこういう取り組みは効果的であると思っている。働き方改革については、今年度から校務のデジタル化を取り入れ業務改善を図っている。奉仕作業も、今年からなくして、少しでも先生方の仕事を減らしていきたいと思っている。

市長 最初に言ったように、教育力は選ばれる市としての重要なポイントであると思っているので、是非頑張ってください。それと、教育委員さんに報告であるが、統合中学校のプールの必要性について費用対効果を踏まえ教育長や学校現場の方々と協議をさせていただいた。先生方からは是非プールの整備をという意見があり、プールを作るということを回答させていただいた。

委員 リーディングスキルトレーニングをすることによる短所は何かあるか。

教育長 基本的には子どもにとってマイナスになるということはない。ただ、すぐに効果がでるといった魔法のようなことはないので、要するに何をやるにしても時間がかかるということである。これを学校現場に下ろしていくとなった場合に、その学校の中でどういう形で、教育の中に入れ込むかを考えていかないといけない。これをプラスアルファだけすると学校の方はさらに仕事が増えるので、そのことも踏まえて慎重に進めていく。

委員 ニュースを見ていると、明石市が「子育てにやさしいまち」として子育てサービスが優れていると言われているが、加西市の方が進んでおり反発を覚えることがある。加西市は子育てや給食費、医療等、明石市より優れていると思うので、この後、学校の跡地利用のことも出てくるが、教育にも力を入れているということを含めてアピールをしていかないといけないと思っている。

市長 明石市は、選挙でそこが争点になったということもありマスコミに取り上げられて一層PRに繋がった。反対意見もあったと思うがしっかり評価していきたい。無料というより教育力を高めていただきたい。特に先生方の余力を作っていないといけないと思う。外部から何か言ってくる、現場がやっていかないといけないと思う。スマホ対策についても安心設定のかけ方については、先生だけでは難しいということもあるかもしれないので、その辺りも良い方法がないか何か考えて改善していかないといけない。

(2) 学校施設跡地の活用について

〔説明〕

教育長 (以下、別添資料2、3の説明)

加西市の年齢別人口については、ここ数年、出生数は190人前後で、年齢を重ねるにつれて200人ちょっとになる。地域別でみると泉中学校区については、各小学校区全て1桁である。九会、富合についてはどちらも2桁であるが少ない。賀茂については3年連続で1桁、富田についても2年連続で1桁という状況である。校区によって、非常に出生数が少ない状況が続いている。特に学校再編計画により、来年度から統合泉小学校が開校するが、開校時から、6年生は57人、5年生が63人と2クラスで充実した人数であるが、1年生が30人で、統合するが結局1年生は

1 クラスとなる。クラス替えができるように統合小学校にしたにも関わらず、また 1 クラスに戻ってしまい、その後も、2 クラスの基準となる 35 人を超える学級が出てこないということで、全て 1 クラスになってしまう状況である。統合してもクラス替えのメリットがなくなってしまうので何とか学級を増やしたい。今の少子化の時期に子どもを増やすということは容易でないことは重々承知しているが、学校跡地については市の土地であることから、例えば、日吉小学校のイメージ図のように、小学校の敷地に住宅開発をして、安く土地分譲を行えば、この地域の方で、そこに家を建てたいという若者が帰ってくる可能性が高まるのではないかと思います。やってみないとわからないということもあるが、そういうことも含めて進めていかないと絶対に変わらないと思うので、是非、この学校跡地については住宅開発を主眼に置いた方針でお願いしたい。また、それを市の方針として、各地各校區で説明をいただければありがたいと思い、議題として提案させていただいた。

〔意見・質疑〕

市長 提案のあったことは、ほとんどが市の責務になる。体育館については、社会教育施設として、また避難所機能を残しつつ今後も活用していく。これだけの人口減少が進むと授業すら出来なくなってしまうような状況である。学校跡地の活用もできるので、各地域で住宅整備もやっていきたいと思っている。人は住宅戸数が 20 戸以上あれば比較的集まりやすいようであるので、そのあたりも考えながら進めていきたい。泉の方は特に早急に対応していかないと、統合した小学校で 1 年生が 30 人、1 クラスになってしまうということで、何のために統合したのかという話にもなるので、これは大きな課題である。また、社会教育の面からも、体育館でいろんな活動をして魅力を高めていくというのも大事なことだと思っており、教育委員にも知っていただき、何か提言やご意見がございましたらお願いしたい。

委員 人を増やそうと思えば、例えば、従業員の多い企業を誘致するというのはどうか。

市長 なかなか難しいかもしれない。ただ、昼間に加西市から 7000 人が市外に勤務に出ているが、11,000 人の方が来られており潜在能力はあると思っている。優良企業の製造業も多い。

委員 昔、私が勤めていた頃は南向きの車が多かったが、今は北向きの車が非常に多い。当然、姫路や加古川の方から来ていただいている状況にある。市長が言われたように、加西市に通って来られる方が非常に多く、こういった人を取り込むためにどうするかということを考える必要がある。1 つは学校跡地利用、もう 1 つは調整区域の線引き廃止が、1 つの大きな機会だと思っている。泉中学校区は商業施設が少ないが、若者世代であれば、ちょっと買い物をしたいのであれば、車で 30 分くらいならそれ程負担にならない距離といわれている。加西市は、本当に良いところだと思う。それに加えて、災害が少ないまちというのが加西市の大きな魅力の 1 つであり、気候も安定している。住みやすい場所だと思う。今までは、農地の関係で住む場所がないという問題があったが、学校跡地や避難所である体育館などの施設をうまく使いながら、地域で暮らしやすく、更に人を呼び込みやすいというところは潜在能力があると思うので、市

一丸となってやっていていただきたい。

委員 加古川、姫路から通勤する人が多く渋滞が起きているので、右折専用道路を整備していただきたい。

市長 右折信号が必要なところは県道であるため、県の方には信号機を何とかして欲しいということは以前から要望をあげているが、なかなか実現しないのが現状である。

委員 豊岡市には大学があるがやはり市外の大学に出ていってしまい、男性の方は帰ってくる率がある程度高いが、女性は都会に憧れて外に出たままになり帰ってくる割合が低いと言われていた。女性に戻ってきてもらえる魅力あるまちづくりが大切だと思う。

市長 加西市で立派な教育ができるとなれば、子どもも集まってくる、これが最大の狙いなので是非協力をいただきたい。学校の跡地活用については、今後の加西市の発展のカギを握っていると思っているので、情報共有と意見をいただいたところである。

委員 学校跡地の活用事項の中に、災害時の避難場所を確保ということで体育館を残すということであるが、実際に費用をかけずに効果的なものは沢山あるので、防災課の方も横の関係を持ちながら、積極的に必要な情報発信していただきたい。実際災害が起こった時には、まずトイレが最大の問題となり、そこから大きく離れて次に水の問題が出てくる。水も電気も止まった場合のことを念頭に避難所の運用のことを考えてやっていただきたい。

4 その他

市長 スクールバスを来年度から導入するので、その中の移動や校外学習にも活用していただくことで発想も変わってくると思う。今までなら、手間がかかり、行けなかったこともあったと思うが、そういった視点で積極的に体験学習などの活用も検討していただきたい。全てをバス運行委託でするのではなく直営で行う部分もあり、統合泉小学校の通学用としては5台のバスを購入する。他の学校と差をつける訳にはいけないので、そういったことを全般的に考えていけないといけない。

委員 例えば、網引湿原に全学校で小学生3年生が環境学習に行っているの、そういったところでの活用が考えられる。

市長 小学校の遠距離通学児童を対象に夏の熱中症対策として、令和7年度より夏季スクールバスを運行するがバス対応の関係もあり、通学距離3km以上が対象となる。現場からは2kmでの運行をとという意見も出てきているが3kmで進めさせていただく。

委員 統合中学校の通学路の問題で、玉野交差点から南側の歩道が、現時点では自転車通行可になっていない。警察の関係もあり時間がかかると思うが改善をお願いしたい。

市長 県道の関係もありなかなか前に進まないのが現状である。